



「ボルダールール」にもとづいた意思決定を導くという点で共通した問題

共通テスト

河合塾

第2問 問2

問2 生徒Aは政治参加にかかわる多数決と民意の関係について調べ、次のレポートを作成した。レポート中のア・イに入る語句の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 106

レポート

民主主義における物事の決め方の一つに多数決があるが、多数決にも様々な課題があることから、その仕組みについていくつかの考え方が示されてきた。そこで、考え方の一つであるボルダールールについて、次のような選挙の例を通して考えてみることにした。

選挙の条件

- ・選挙区は、1名のみが当選する小選挙区とする。
- ・選挙区には8,000名の有権者がおり、その全員が1票ずつ投票する。
- ・候補者は、XとYとZの3名とする。
- ・有権者は、当選させたい順に、3名の候補者に順位を付けた1票を投じる。候補者には、1位に3点、2位に2点、3位に1点を与えられる。
- ・獲得した総得点の最も高い候補者が当選者、その次に高い候補者が次点となる。

投票結果

1位 候補者X 2位 候補者Y 3位 候補者Z	1位 候補者Y 2位 候補者Z 3位 候補者X	1位 候補者Z 2位 候補者Y 3位 候補者X
3,000票	2,500票	2,500票

投票結果は上のとおりとなった。そのうち候補者Xに注目すると、Xを1位としたものが3,000票である一方、3位としたものも合計で5,000票となる。そこで、選挙の条件の下で計算してみると、当選者はア、次点はイとなる。

一部の国や地域の選挙では、ボルダールールの考え方に近い制度が採用されている。選挙は民意を政治に反映する機会だから、そこで用いられている多数決の仕組みにも、より意識を向ける必要があるのではないかな。

- ① ア 候補者X イ 候補者Y
② ア 候補者X イ 候補者Z
③ ア 候補者Y イ 候補者X
④ ア 候補者Y イ 候補者Z
⑤ ア 候補者Z イ 候補者X
⑥ ア 候補者Z イ 候補者Y

第2回 全統共通テスト模試 公共
第1問 問2

問2 下線部⑥に関連して、次の事例は、生徒Aと生徒Bが投票による決定方式について調べるなかで見つけたものであり、後の会話文は、この事例に関連して生徒Aと生徒Bが交わしたものである。会話文中の空欄ア・イに入る語句の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 2

事例

ある学校のクラスにおいて、文化祭の出し物を、37人のクラスメイト全員の投票で決定することになった。出し物の候補は、演劇、脱出ゲーム、模擬店の三つである。決定にあたって37人のクラスメイトは、それぞれが出し物にしたい順に三つの候補に順位を付けるという形で投票し、付けられた順位に従って、1位票に3点、2位票に2点、3位票に1点を付けて集計し、総得点が最多となった出し物に決定する方式が採られた。この方式の下で行われた37人のクラスメイトによる投票結果は、次の表1の通りであった。

表1

	20人	10人	7人
1位	演劇	脱出ゲーム	模擬店
2位	脱出ゲーム	模擬店	脱出ゲーム
3位	模擬店	演劇	演劇

- A：この事例で採用された決定方式は、ボルダールールと呼ぶらしいよ。
B：そうなんだ。このルールによる決定方式を用いて考えると、どのような結果になるのかな。
A：ボルダールールに従った場合、クラスの出し物はアに決定するよ。
B：そのようだね。じゃあ、仮に、1位票だけで多数決をとる方式を採用した場合、どのような結果になるかな。
A：その場合、イがクラスの出し物に決定することになるね。用いる方式によって結果も変わるんだね。

- ① ア 演劇 イ 脱出ゲーム
② ア 演劇 イ 模擬店
③ ア 脱出ゲーム イ 演劇
④ ア 脱出ゲーム イ 模擬店
⑤ ア 模擬店 イ 演劇
⑥ ア 模擬店 イ 脱出ゲーム

場面設定は異なるものの、単純多数決とは異なる決定方式である「ボルダールール」にもとづき、問題に示された条件をもとに正解を導くという点で上の2問は共通している。1位に3点、2位に2点、3位に1点という順位付けも同じであるため、模試の復習をしていた人は容易に解答できたと思われる。